

病害虫防除技術情報第18号

平成 27 年 2 月 19 日
三重県病害虫防除所

**イチゴ・トマトの灰色かび病が増加しています！
圃場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めましょう。**

1. 対象作物：イチゴ（施設）、トマト（施設・冬春作型）
2. 病害虫名：灰色かび病
3. 発生状況：多

- (1) 2月第2週の巡回調査では、イチゴにおける発病株率 5.0%（平年 1.3%）、トマトにおける発病株率 13.1%（平年 5.1%）と平年より多く、果実においても発生が確認されています（図）。
- (2) 一般圃場での発生量は、平年より多い状況です。
- (3) 例年 2 月から 3 月にかけて本病の発生が増加しやすいため、注意が必要です。

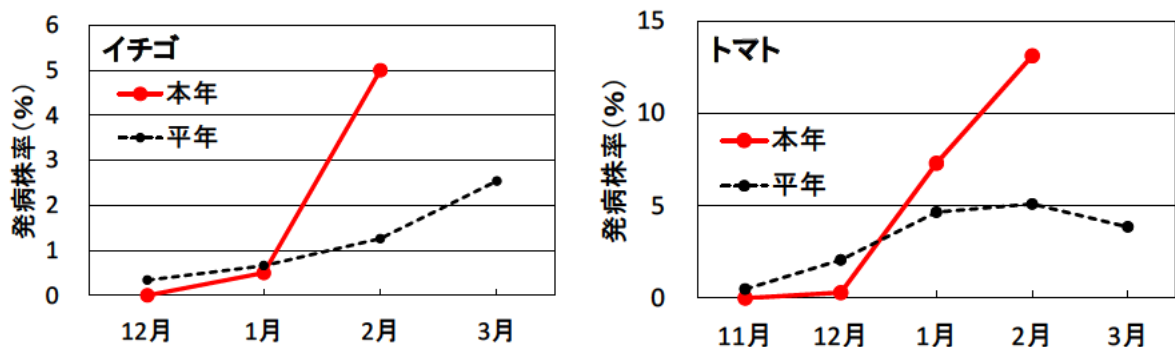


図 イチゴおよびトマトにおける灰色かび病発病株率の推移
※イチゴは県内 12 圃場、各圃場 50 株調査。トマトは県内 8 圃場、各圃場 50 株調査。
※平年は過去 10 年間の平均値。

4. 防除上の注意事項

- (1) 本病は 20℃前後の温度と多湿条件で発生しやすいため、ハウス内の温度及び湿度管理に注意してください。特に、曇雨天が続く場合には、循環扇や暖房機を稼働して、ハウス内の湿度を下げるようにしてください。
- (2) 発病した茎葉や果実、枯死葉等は伝染源となるため、こまめに取り除いて圃場外に持ち出し、適切に処分してください。
- (3) トマト果実では、胞子が発生しなくても果実表面に黄白色の小斑点(ゴーストスポット)が生じることがあります。商品価値を著しく落とすので注意が必要です。
- (4) 発病前の予防的薬剤防除が基本です。また、病勢が進行すると防除が困難になります。圃場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めてください。
- (5) 薬剤防除では、薬剤耐性菌を生じる恐れがあるため、同一系統薬剤の連用を避け、作用機構の異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。